

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
日本語Ⅳ JapaneseⅣ		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(留学生必修 日本人不可 週2回 科目である。2回とも出席すること。)	特になし。
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし。				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし。				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
飯塚 敏夫 IIZUKA TOSHIO		講義棟1階 講師室	水・木の9時から15時(授業時間を除く)	授業中に指示します
授業の概要				
1年次における学習成果を踏まえ、N4程度の日本語力を持つ受講生を対象として、日本語を話す・聞く・読む・書くの4つの技能を身につける。				
授業の目標				
1. 新しい言葉を覚える。 2. 文型の練習をする。 3. 会話の練習をする。 4. 確認問題を解く、の作業を通じて、基礎的な日本語を話す・聞く・読む・書くことができるようにする。				
授業の方法				
講義、講読、会話、問題演習などにより、日本語能力の向上を図る。 特に聞く・話す能力の向上に重点を置く。 復習テストも毎週行う。				
学習の成果(学習成果)				
1. 1年次における学習成果を踏まえ、次の段階の日本語力を身につける。 2. 日本語による授業を一定程度要点を述べることができる。 3. 日本語を一定程度聞き、話すことができ、実社会で役立つ日本語コミュニケーション能力を身につける。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス。実力チェックテスト(筆記)。実力チェックテスト(口述)。			
第2回目	これまでの総復習。			
第3回目	「〇〇くださいました」「〇〇くださいませんか」	復習小テスト。漢字練習。		
第4回目	「〇〇に使います」「〇〇かかります」	復習小テスト。漢字練習。		
第5回目	「〇〇やすいです」「〇〇にくいです」	復習小テスト。漢字練習。		
第6回目	「〇〇するところです」「〇〇ばかりです」	復習小テスト。漢字練習。		

第7回目	「〇〇はずです」「〇〇そうです」	復習小テスト。漢字練習。
第8回目	「〇〇に〇〇させます」「〇〇を〇〇させます」	復習小テスト。漢字練習。
第9回目	中間総復習	
第10回目	「〇〇られます」「〇〇られました」	復習小テスト。漢字練習。
第11回目	「お〇〇します」「ご〇〇します」	復習小テスト。漢字練習。
第12回目	総合復習1 文法	
第13回目	総合復習2 語彙	
第14回目	総合復習3 会話	
第15回目	模擬試験と解説	
事前・事後学習	事前：今までに使用したテキストをもう一度復習しておく。 事後：学習した範囲を復習する。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	毎回予習をし、積極的に授業に参加している。 会話練習の場面では積極的に発話している。
レポート		
調査報告書		
小テスト	30%	前週の授業内容をよく理解、習得し、テスト問題に正確に答えている。
試験	40%	16週目に実施。話す・聞く・読む・書くの各技能をバランスよく習得し、試験問題に正確に答えている。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教室で指示する。		
履修上の留意点・ルール		
日本語を習得しようという情熱をもって授業に臨むこと。遅刻、私語は禁止。飲食物の持ち込み不可。		

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
日本語Ⅳ Japanese IV		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(留学生必修 日本人不可 週2回科目)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
竹上瑞穂	特になし	特になし 学生からの依頼があった際に実施		授業中に指示します
授業の概要				
テキスト「留学生のための 時代を読み解く上級日本語（第2版）」を使用し、日本語を話す・聞く・読む・書くの4つの技能を身につける。 特に本授業ではテキストを通じ、日本の社会事情についての知識を深めることで就職や進学を控える2年生の日本語力向上を図る。				
授業の目標				
1. 新出語彙の習得。 2. 文型の練習をする。 3. 会話の練習をする。 4. 練習問題を解く。 これらの取り組みを授業で行い、基礎的な日本語を話す・聞く・読む・書くことができるようにする。 また、自身の考えを日本語で伝えること。他者の考えを聞き、理解することができるようにする。				
授業の方法				
テキストを題材に講義を行い、テキストの読解、会話演習、問題演習などにより、日本語能力の向上を図る。 特に聞く・話す能力の会話力向上に重点を置く。 また、日本事情をニュースなどを題材に理解・議論を行い、社会人として日本で生活する上で必要な知識を学習する。				
学習の成果（学習成果）				
1. これまでの日本語学習の成果を踏まえ、次の段階の日本語力を身につける。 2. 日本語による授業を一定程度要点を述べるができる。 3. 日本語を一定程度聞き、話すことができ、実社会で役立つ日本語コミュニケーション能力を身につける。 4. 自身の考えを日本語で他者に伝達することができる能力を身につける。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	授業ガイダンス			
第2回目	第1章「生活」 2. 遠距離結婚	(1)	漢字・語句確認	
第3回目	第1章「生活」 2. 遠距離結婚	(2)	本文読解	
第4回目	第1章「生活」 2. 遠距離結婚	(3)	復習・会話練習	
第5回目	第1章「生活」 2. 遠距離結婚	(4)	意見・感想作文作成 ディスカッション	
第6回目	第2章「少子高齢化」 6. なぜ少子化が社会問題なのか	(1)	漢字・語句確認	
第7回目	第2章「少子高齢化」 6. なぜ少子化が社会問題なのか	(2)	本文読解	
第8回目	第2章「少子高齢化」 6. なぜ少子化が社会問題なのか	(3)	復習・会話練習	
第9回目	第2章「少子高齢化」 6. なぜ少子化が社会問題なのか	(4)	意見・感想作文作成 ディスカッション	
第10回目	第3章「教育」 1 4. メディア機器・IT機器の影響	(1)	漢字・語句確認	
第11回目	第3章「教育」 1 4. メディア機器・IT機器の影響	(2)	本文読解	
第12回目	第3章「教育」 1 4. メディア機器・IT機器の影響	(3)	復習・会話練習	

第13回目	第3章「教育」 14. メディア機器・IT機器の影響 (4) 意見・感想作文作成 ディスカッション	
第14回目	第4章「企業と労働」 15. 日本型雇用システム<1> (1) 漢字・語句確認	
第15回目	第4章「企業と労働」 15. 日本型雇用システム<1> (2) 本文読解	
第16回目	第4章「企業と労働」 15. 日本型雇用システム<1> (3) 復習・会話練習	
第17回目	第4章「企業と労働」 15. 日本型雇用システム<1> (4) 意見・感想作文作成 ディスカッション	
第18回目	中間試験	
第19回目	第4章「企業と労働」 15. 日本型雇用システム<2> (1) 漢字・語句確認	
第20回目	第4章「企業と労働」 15. 日本型雇用システム<2> (2) 本文読解	
第21回目	第4章「企業と労働」 15. 日本型雇用システム<2> (3) 復習・会話練習	
第22回目	第4章「企業と労働」 15. 日本型雇用システム<2> (4) 意見・感想作文作成 ディスカッション	
第23回目	第4章「企業と労働」 19. 新卒外国人が変える日本 (1) 漢字・語句確認	
第24回目	第4章「企業と労働」 19. 新卒外国人が変える日本 (2) 本文読解	
第25回目	第4章「企業と労働」 19. 新卒外国人が変える日本 (3) 復習・会話練習	
第26回目	第4章「企業と労働」 19. 新卒外国人が変える日本 (4) 意見・感想作文作成 ディスカッション	
第27回目	第5章「科学技術と人間」 21. ネット依存と人間関係 (1) 漢字・語句確認	
第28回目	第5章「科学技術と人間」 21. ネット依存と人間関係 (2) 本文読解	
第29回目	第5章「科学技術と人間」 21. ネット依存と人間関係 (3) 復習・会話練習	
第30回目	第5章「科学技術と人間」 21. ネット依存と人間関係 (4) 意見・感想作文作成 ディスカッション	
事前・事後学習	事前：配布した次回の授業で使用するテキストプリントを使用し、内容について把握する予習を行う。 事後：学習した授業内容・範囲について復習を行う。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	予習を欠かさず、授業に積極的に参加している。 授業にて指名された際、あるいは自発的に設問に対して答えることができる。 会話の場面では積極的に参加している。
レポート		
調査報告書		
小テスト	30%	授業の進捗状況に応じて、小テストもしくは同等の宿題を課す。 小テスト範囲の授業内容について理解し、試験問題（宿題の設問）に正確に解答している。
試験	40%	16週目に実施。 試験問題に正確に解答している。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：「留学生のための 時代を読み解く上級日本語（第2版）」スリーエーネットワーク、2012 参考図書：適宜授業内で説明		
履修上の留意点・ルール		
授業内容やテキストは履修生の能力や進捗状況に応じて適宜変更を行う。 配布されるテキストプリントに事前に目を通し、内容把握・予習を行い授業に臨むこと。 授業開始時間から30分以降の入室は欠席として処理する。30分以内であれば原則遅刻（出席同等）として処理する。 欠席日数が授業日数の1/3を超過した場合、期末試験の受験資格を失い成績は不可となる。		